

まなぶ はじめてのひらがな



“重度の身体障害児を対象とした”ソフト &
“重度の身体障害を有する小児が自ら操作できる”ハード
が揃いました

重度障害者用の意思伝達装置は、市販されていますが、
装置使用の前提となる「文字打ち」がまだできない子どもが
パソコン操作により、自分の意思を伝えるための‘まなぶソフト’

- ◆パソコンをマウスやスイッチだけではなく、視線での操作も可能とするソフト (Tobii Communicator) を使った教材
- ◆人気アニメの動画、画像、文字、読み上げにより、健常児と一緒に重度の身体障がい児も、対話感覚で、ほめてもらったり、教えてもらいながら「いろ」「かたち」「かず」「ひかく」「ひ

らがな」の意味を楽しく学べる

- ◆「おしまい」ボタンで、自分のペースに合わせた学習ができる
- ◆ちょっと頑張ってみようと思えば、誰にでも簡単に、応用的に編集できる

コンテンツの活用について

この制作物は、目での操作を可能にする専用ソフト (Tobii Communicator *視線だけではなく、マウスやスイッチ操作にも対応可能) を用い、ひらがな学習を目指しているお子様に「いろ」「かたち」「かず」「ひかく」「ひらがな」を学ぶための素材として選んだ動画と、画像、文字、読み上げによる「問い」から構成しています。お子様の力がはぐくまれるようにまた、気付かなかった力が可視化され、成長に向けた関わりのヒントが得られるようにと制作しました。

コンテンツの内容は、学習に適すると考えて選択した ①アニメ動画の映像の一部(それぞれ5～10分程度)と、視聴した後にその内容の理解を助けたり、理解を確認するための ②問いを基軸にしています。使い方は、お子様が一人で自由に選択→決定→実行できる、あるいは保護者や教員とのやり取りの中で使用できるようにと考え、作成しています。

お子様は、普段から映像を見ることには慣れており、動画は楽しんで見ると思います。ですが、時には「問われる」ことに慣れていないため、動画の後の「問い」には関心を示さないかもしれません。そのような場合にも、お母様や先生たちがお子様を励ま

し、普段の生活に関連付けて、お子様が興味や関心を持ち、意欲を持って取り組めるよう声掛けをしてあげてください。また、正解した時や間違っても何度もやり直して取り組もうとしている時には、思いっきり褒めてあげてください。そうすれば、きっと次はもっとうまくやろうと意欲をもって頑張れると思います。もしかしたら、一人で自由に使えるようにしてあげたら、お子様はサクサク進めていくかもしれません。諦めないで、何度も、何度も繰り返し取り組むことが大切です。きっと次は、うまくできるようになります。お子様の力を信じましょう！

ひらがなを習得し、「自分」を発信することで、人との交流はぐくまれ、お子様の世界が広がっていくことを願っています。さらにまた、この教材がヒントになりお子様への指導のさらなる工夫へとつながっていけば嬉しいです。

【特徴】

- ① 動画で疑似体験
- ② 文字を覚えていない子どもでも「音」で理解できるように「画像」「文字」と共に、読み上げている
- ③ 「おしまい」ボタンが各画面に設けてあり、子どものペースで進めていける

【対象】

ひらがなが未修得の障がいの重いお子様
例) 脊髄性筋委縮症、脳性麻痺、等々

【使用目的】

- ① ひらがなを習得するための導入教材
- ② 子どもの理解度の確認

尚、動画は小学館及び関係者様のご厚意により、「コロコロアニマル(c)2006 MC/Project ColoColoAnimal 原作 Naomi Iwata」「どっちどっちーず(c)Jun Ichihara, Kotomi Wada」(めばえ増刊 はじめてのひらがな・かず・ABC 2013 年夏号収録)、「あいうえおしょうかい(c)Kotomi & Pla-Pla・小学館」(めばえ増刊 クリスマスえいご・ひらがなブック 2013 収録)、「ペネロペとあそぼう(c)うっかりペネロペ製作委員会」(めばえ増刊 はじめてのひらがな・かず・ABC 2013 年冬号収録)、「くるみわりにんぎょう(c)石井睦美・木村法子/Shogakukan」(おひさま 2013 年 12 月号収録)を使用しています。

試用をご希望される方、ご質問のある方は、
E-mail:msuzuki@hs.med.kyoto-u.ac.jp までご連絡ください。お待ちしております。

2014.3 月

京都大学医学研究科 成育看護学分野 鈴木 真知子
株式会社 クレアクト (担当 伊藤 直弥)

協力; 京都大学こころの未来研究センター教授 (センター長)
吉川 左紀子 博士 (教育学)

編集協力; 特定非営利活動法人 ゆに (京都から障がい学生支援を広めよう!~)

2013 年度ファイザーヘルスリサーチ振興財団から研究助成を得て制作しています